

『外国で学んだ剣道の魅力』

北海道

真駒内少年剣道会

中学1年 若生大河

去年の冬、僕は外国で初めて剣道をしました。父がフランスに長期出張していたため、フランスの道場で剣道の稽古に参加することができたのです。

これまで、世界大会を動画などで見る機会があっても、実際に外国人と稽古をしたことはありませんでした。外国の道場でどのような稽古をしているのかも知らなかったので、外国の剣道は日本の剣道と同じなのだろうか、とても緊張しました。

フランスでの稽古では、フランス人はもちろんいましたが、イギリス人や中国人、ベトナム人など様々な国の人が剣道をしていて、まず僕はそのことに驚き、日本で始まった剣道を世界の多くの人がやっているのだと実感しました。

稽古内容は、僕らがやっている稽古とほとんど変わらず、礼儀作法も同じ、普段フランス語を使っている外国人も、体操や号令などは全て日本語を使っており、日本の剣道と変わりはありませんでした。

フランスでいろいろな国の人と剣道の稽古をしてみて強く感じたことは、日本人の僕らがどこの国の人よりも一番正しい剣道をしなくてはならないということです。外国人は、小学生だった僕のことで一人の日本の剣士として見てくれていたので、僕は正しい剣道をしなくてはならないというプレッシャーを感じました。

正しい剣道と言っても、僕は深いところまではまだわかりませんが、構え方、打ち方一つでも決して手を抜いたりしてはいけないのだと思いました。剣道は、気・剣・体が大切だと教わっています。気合い、剣さばき、身体の勢い、どれか一つでも欠けては有効打突にはならないのです。だからこそ、気・剣・体を常に意識して稽古に取り組まなくてはならないと僕は改めて思いました。

去年の夏休みに、フランス人の大学生が札幌に剣道をしに来ました。ほとんど日本語も話せないのに、なぜわざわざ来たのか、そもそもなぜフランスで剣道を始めたのか疑問に思い、聞いたところ、

「心が磨けて、礼儀作法が素晴らしく、とても魅力がある武道だから始めた。その武道を文化とする日本で剣道をしてみたかった。日本で剣道ができて感謝しかない。」

と言っていました。

「剣道は本当に凄い」と思いました。日本の武士から始まった剣道を、遠い国の外国人が魅力があると言っているのです。僕は、日本人として、ますます正しい剣道や礼儀作法を身につけなくてはならないと思いました。

剣道は、「礼で始まり礼で終わる」と言います。道場に入ったりするときの礼や、稽古中に何

度もする礼など、日々稽古をしているとただ単に形だけの礼となっていることもあり、礼の意味を忘れがちです。稽古をさせていただく道場に感謝、指導させていただく先生方に尊敬と感謝、稽古や試合をする相手に感謝、応援してくれている家族に感謝、そして大好きな剣道ができることに感謝など、そういった気持ちを常に持つことが大切で、その気持ちを持っていると、自然と正しい礼儀作法が身につくのではないかと思います。

僕は、試合に勝てばもっと剣道が楽しくなると思い、相手に勝つことだけを目標に剣道をやってきましたが、ただ相手に勝つためだけではなく、正しい礼儀作法を身につけ、技を磨き、苦しい稽古でも耐えられる心を鍛えることが大切で、それが剣道の魅力だと学びました。

今後は、この学んだことを忘れず、日々の稽古に励んでいきたいです。そして、将来機会があれば、正しい剣道や礼儀作法、剣道に対する姿勢など、日本人の剣士として誇りを持って、外国人に剣道の魅力を教えられるようになりたいです。